

敢闘誓う十球團、浦上原頭、絢爛の入場式

第1回県下郡市対抗軟式野球大会

会期：昭和26年9月29日(土)～30日(日)

会場：A・長崎市営大橋球場 B・西重浦上球場

島原ニュースター(島原南高)	3	再試合	7	4	2	0	1	3	6	4	3	0	西重造船所(長崎)	1		
高島鋳業所(西彼)	1		2										1	3	共済病院(佐世保)	1
大村市役所(大村東彼)	2		2										2	4	全巖原(対馬)	1
壱岐高校クラブ(壱岐)	0		0										2	3	長崎刑務所(諫早北高)	1
日鉄御橋炭鋳(北松)	7		7										2	0	五島支庁(南松)	1



第1回長崎県下郡市対抗軟式野球大会の第1日は5月に竣工した長崎市営大橋球場で県下郡市代表10チームが参加、長崎市警ブラスバンド吹奏に乗って入場があった。試合は大橋、西重浦上の両球場で二回戦6試合を行なう予定だったが、降雨により大橋球場第4試合の共済病院-全巖原の試合が順延された。

(昭和26年9月30日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)



遠山の二塁打も空し 高島、投手起用に失敗

【一回戦】大橋：第1試合(開始10:30) 球振犠失

高島鋳業所	000 100 000	1	5	5	0	2
島原ニュースター	020 010 00X	3	4	6	0	5

【二】遠山

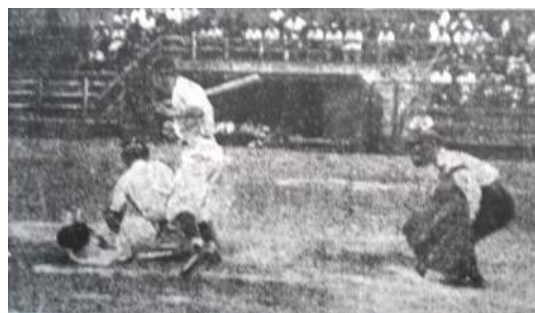
【高島】打安	【島原】打安
⑥江頭 4 1	④大原 4 2
⑦3大庭 3 0	⑤游見 4 0
③2福島 2 0	⑨永池 3 0
⑨長崎兄 2 0	③笹田 4 1
⑧江頭宏 4 0	②村里 3 0
⑤長崎弟 4 1	①土橋 3 0
④佐藤 2 0	⑥吉田 3 1
4前山 2 0	⑧古波蔵 2 0
①遠山 2 1	⑦多田 1 0
1中川 1 0	27 4
②河野 2 0	
7小川 1 0	

29 3

【評】高島はエースの中川をベンチに置き遠山を先発させたが、二回島原は笹田の安打を足場に二死から吉田のクリーンヒットで先取点。さらに連続四球の満塁で、大原の遊ゴロ失で加点した。

さらに五回、四球出塁の多田が三進した二死後に、ホームスチールを敢行(写真)して3点目を挙げた。

高島は島原・土橋の速球にミートできず、四回に敵失で出た長崎弟が盗塁で進塁し、佐藤の二塁敵失打で還った1点に止まり、七回から中川をマウンドに送ったが時すでに遅く、八回の好機も併殺に阻まれて涙をのんだ。



【共済】打安
④水上 5 3
⑤山田 0 0
⑨塚原 5 1
③岩佐 4 1
⑧永野 4 1
②松尾 4 1
⑦岩永 3 0
7前田 1 1
①武田 4 2
⑥白浜 1 0
6鷺尾 3 0

34 10

武田の速球冴える 佐世保、押し切って快勝

【一回戦】西重：第1試合(開始10:45) 球振犠失

共済病院	001 002 210	6	3	4	3	1
西重造船所	000 100 000	1	2	9	1	5

【三】水上、塚原

【二】岩佐、三宅、森

【評】共済病院は三回、三塁打の水上が山田のスライズで先制。六回は二死二塁に岩佐の右中間二塁打と、遊ゴロ失で2点を加えた。さらに七回は武田の内野安打を足場の二死一二塁に塚原が一掃の左中間三塁打。八回にも岩永のタイムリー打によりダメ押し点を挙げた。

西重造船所は初回の一死二塁を逸し、四回に一死から森が左二塁打し、井手の二塁強襲安打で還った1点のみで、その後は共済病院・武田の速球をうちあぐみ完敗した。西重の敗因には六回に球威の衰えた田中を交代させ得なかったリリーフ陣の薄弱さもあった。

【西重】打安
⑤三宅 4 2
⑦8的山 3 1
③深堀 3 0
②森 4 1
⑥井手 4 1
⑨海老原 3 0
①田中 4 1
④大内 3 0
⑧7山口 3 0

31 6

【壱 岐】打安

⑥ 浜 口	3 0
⑧ 山 内	2 0
①9 山 口	3 0
③1 井 本	3 0
⑨3 深 見	3 0
⑤ 野 本	3 0
⑦ 西 川	2 0
② 太 田	1 0
2 畑	1 0
④ 馬 場	2 0
21 0	

日鉄御橋堂々 の貫禄示す

【二回戦】大橋：第2試合(開始12:30) 球振儀失

壱岐高校クラブ	000 000 0	0	2	5	0	4
日鉄御橋炭鉱	201 300 1x	7	2	1	0	0

(7回コールド)

【評】日鉄御橋は巨躯揃いだけに好守とも重量感があり、若武者・壱岐高をもってしても如何ともかなわなかった。壱岐の先発山口はカーブが決まらず直球に頼ったが、これが御橋の待球主義にあって壊滅。加えて野手の凡失が連続して四回まで6点を奪われた。救援の井本もボーク禍に悩み七回無死から1点を取られて遂にコールドゲームを喫した。
御橋の小川投手は重い球を内外角にビシビシ決め被安打0。二塁を踏ませぬ力投を見せた。それにしても壱岐はチームが若く、前半にリードを奪われてからはスッカリ萎縮した。

【御 橋】打安

⑤ 浦 川	3 1
④ 砂 田	4 0
② 宇治原	2 1
③ 井 上	3 0
⑧ 藤 本	1 0
⑦9 藤 原	3 1
⑨ 泉	2 0
7 古 賀	1 0
⑥ 山 川	0 0
① 小 川	3 0
22 3	

【五 島】打安

② 館 森	4 1
⑧17 松 尾	4 0
⑦5 田中兄	4 2
⑥ 田中弟	4 1
⑤1 流 川	3 1
③ 三 浦	3 1
④ 横 井	2 0
①9 森 山	3 0
⑨8 平 山	3 0
30 6	

五島支庁、 不運の敗退

【二回戦】西重：第2試合(開始13:00) 球振儀失

五 島 支 庁	000 000 000	0	1	10	0	0
長 崎 刑 務 所	001 110 00x	3	9	6	0	1

【評】二回まで3三振を奪う好投を見せていた五島の森山は、三回二死二塁に川原にタイムリー打を浴びて自信を失い、制球も崩れて四回は1安打に3四球で押し出し点を献上。五回到四球を与えたところで、松尾に代わったが松尾も連続四球の投球数10で流川の登板を促すという、投手陣のもろさを暴露した。攻めても二回に安打と二盗の田中弟が犠打策失敗で三塁死、その後に三浦の三塁打も後続なし。五回は無死一三塁の好機に重盗を試みたが、三走の拙走で失敗。さらに一死一三塁と攻め、森山の一ゴロで本塁を突くも憤死する拙走暴走の連続で自らチャンスの芽を摘み、貧打の長崎刑務所に名を成さしめた。

【刑務所】打安

⑨ 本 田	3 0
⑥ 川 原	3 1
① 松 尾	2 0
③ 力 安	4 0
⑧ 松 本	3 0
④ 松尾躬	3 0
② 森 永	3 1
⑤ 長 門	2 0
⑦ 千 住	1 0
24 2	

光る土橋の健投 雨中の熱戦14回 両軍遂に引分け

【島 原】打安

④ 大 原	4 0
⑤ 游 見	5 0
⑨ 永 池	4 0
③ 笹 田	4 0
② 村 里	5 0
① 土 橋	5 0
⑥ 吉 田	4 0
⑧ 古波蔵	3 1
⑦ 多 田	4 0
38 1	

【大 村】打安

⑥ 木 村	6 0
④ 古 賀	5 0
⑤ 大久保	5 0
③ 中 島	6 1
①9 森 林	5 0
⑦1 柴 山	4 0
⑨7 尾 崎	6 1
② 沢 山	6 1
⑧ 俵 坂	5 0
48 3	

【二回戦】大橋：第3試合(開始14:05) 球振儀失

島原ニュースター	000 002 000 000 00	2	5	4	2	7
大 村 市 役 所	001 001 000 000 00	2	4	9	2	1

(延長14回) 【三】古波蔵

【評】試合の中盤から降り出した雨は、次第に豪雨となり延長14回引き分けて再試合となった。
島原は肝心なところでエラーが出て高島戦に次ぐ連投した土橋の健投をフイにした。六回の島原は敵失走者の吉田を置いて、古波蔵の右前テキサス打が幸運な三塁打となり同点。さらにスクイズで優位に立ったが、その裏一塁手の手痛いエラーで二死後の走者を出し、続く沢山のクリーンヒットでタイに持ち込まれた。後半は土橋と柴山の投手戦となり、雨中戦を続行。大村は13回に一死満塁のサヨナラの場面を築いたが併殺打に倒れた。
三振9個奪った土橋と、大村の大久保三塁手の好守が光った一戦だった。



大会最終日は大橋球場で懸念された前夜来の雨もカラリと晴れ青空に飛ぶ白球の音も高らかに6球団追いつ追われつのシーソーゲームで雰囲気は上々。第1試合は前日の降雨で順延となった、対馬-佐世保戦。続

いて前日雨の中、延々14回の死闘を展開し再試合となった、島原-大村の二回戦2試合があり、次いで準優勝戦と優勝戦の計5試合があった。
(昭和26年10月1日付けの長崎日日新聞より記事と写真は抜粋)

対馬、佐世保を屠る

【二回戦】第1試合(開始09:00)

全 巖 原	000 400 0	4
共 済 病 院	000 000 3	3

優勝候補佐世保を対馬が気概で圧倒。四回集中安打を浴びせて4-0と優位にたち最終七回佐世保の反撃で差1点に迫られたが、宮原投手力投して遂に4-3で対馬が佐世保を屠る大番狂わせを演じた。
(個人テーブルの掲載なし)

【評】佐世保の先発前田はさして球威なく必勝の意気に燃える巖原は四回江副の遊撃内野安打を足場に江口三塁強襲のあと小森の一打は野選となり、無死満塁の好機をつかみ続く中田の三塁横を抜く痛打でまず2点。さらに内山の左越三塁打で2点を追加し前田をノックアウト、エース武田の登板を促した。
守っては宮原が外角をいっぱいづく得意のアウトカーブで打線を押え、終回4安打を浴びて招いた無死満塁のピンチも佐世保大宅の失走に逃げ切った。

- 【島原】打安
 ④大原 4 1
 ⑤游見 3 0
 H中村 1 0
 5谷口 0 0
 ⑨永池 2 0
 9早川 1 0
 ③笹田 2 1
 ②村里 3 1
 ①土橋 3 1
 ⑥吉田 3 1
 ⑧古波蔵 3 1
 ⑦多田 3 1

島原、下位打線振るう

【二回戦】第2試合(開始11:30)

島原ニュースター	040 030 0	7	2	1	0	1
大村市役所	000 020 0	2	2	7	0	2

球振犠失 【本】古波蔵
 【三】中島
 【二】笹田、村里、古賀、柴山

【評】前日の再試合。島原は二回に吉田のタイムリー打で先制した一二塁に、古波蔵が中越えランニング3ランして大村の先発・柴山をKO。五回は代わった森林にも長短3安打を浴びせて3点を奪って大きくリード。対して大村市役所は前日に続く土橋の右腕に封じられ適時打なく、五回になって1四球2安打で2点を返したにとどまった。島原の勝因は土橋の好投もさることながら、下位打線の爆発がその因で、大村の三振数と島原の安打数が同数の7だったのは皮肉な対象であった。

- 【大村】打安
 ⑨今村 0 0
 ②沢山 3 0
 ⑤64古賀 3 1
 ⑦田口 3 0
 ③中島 3 2
 ⑥1森林 3 0
 ①48柴山 3 1
 ④89野中 1 0
 6木村 1 0
 8尾崎 3 1
 ⑧依坂 0 0
 5大久保 1 0

28 7

24 5

両軍、投手戦に終始 讃えられる 対馬の健闘

【準優勝戦】第3試合(開始13:00)

全 敵 原	000 000 0	0	3	9	0	1
長崎刑務所	000 010 X	1	2	2	0	1

- 【全敵原】打安
 ⑧艶島 2 0
 ⑨江副 3 1
 ②江口 3 0
 ⑦小森 3 0
 ⑥中山 3 1
 ③内田 3 0
 ⑤山田 1 0
 ①宮原 2 0
 ④江崎 2 0
- 【刑務所】打安
 ⑨本田 2 0
 ⑥川原 3 0
 ①松尾誠 3 0
 ③力安 2 0
 ⑧松本 1 0
 ④松尾躬 2 0
 ②森永 2 0
 ⑤長門 2 1
 ⑦千住 2 1

【評】対馬の宮原はアウトカープで外角一杯を攻めつけ、また諫早松尾は内角にホップするすばらしい速球で共に好投。その上両軍バックの好守に1点を争う緊迫した熱戦となったが、諫早は五回四球の松本が遅い宮原のモーションを盗んで二三盗に成功。続く森永とのスクイズで投前に転がった凡ゴロを宮原逸する間に松本生還し貴重な1点をあげそのまま押し切つて快勝。

これに対して対馬打線はややあせり気味で内角高めに浮き上がる松尾の速球にげん惑されて三振9を奪われる貧打ぶりを露呈し、七回迎えた唯一の得点機の一死二塁の好機も山田が三振後、内山が三塁暴走して憤死し自らチャンスの芽を摘むという不運に敢えなくついで去った。しかしながら連投の宮原を救って、よく準優勝位まで駒を進めた敵原ナインの健闘とその旺盛なる闘志は称賛に値する。

22 0

19 2

土橋、力投及ばず

【準優勝戦】第4試合

島原ニュースター	000 001 0	1	2	4	1	4
日鉄御橋炭鋳	000 001 1x	2	3	0	0	1

【評】本大会随一、手に汗を握るエキサイトゲームを演じ、優勢裏に押し切ろうとした島原は、土橋の獅子奮迅の好投も空しく三塁手の適時失にあたら掌中の玉を逸した。土橋は前日以来実に37イニングスを連投、不死身の力投を示しながら敗退したのは惜しみても余りある。

日鉄御橋は決勝に備えてか、エース小川をベンチにおき浦川を先発させたがシュートボールで前半を無得点に抑えた。それでも五回の島原は二死二三塁の好機を迎えたが決定打が出ず、一方土橋は御橋打線が外角球に弱いと見るや、徹底的にコーナーをつき得意のアウトドロップを織り交ぜて四回まで無安打。五回一死後に浦川に左越え二塁打を打たれたが、後続の二者を捕邪飛に退けた投球は誠に虚々実々たるものがあつた。

六回の島原は一死後、游見、村里が連打。ここで代わった小川の初球を笹田が左翼線二塁打して待望の先取点。だが一走の村里が本塁前に憤死する拙走であった。御橋もその裏に敵失と野選でつかんだ好機にスクイズを決めて同点とし、延長戦かと思わせた。だが島原は勝利の女神に見放されたかのごとく、七回裏、再度の三ゴロ悪送球と土橋の牽制悪投でサヨナラ敗戦をした。

- 【島原】打安
 ④大原 4 0
 ⑤游見 3 1
 ②村里 3 1
 ③笹田 3 1
 ⑨永池 3 0
 9早川 0 0
 ①土橋 2 0
 ⑥古田 0 0
 ⑧古波蔵 2 0
 ⑦多田 3 0
- 【御橋】打安
 ⑤堀 2 0
 1小川 1 0
 ④砂田 3 1
 ②宇治原 3 1
 ③井上 3 0
 ⑧藤本 3 0
 ①5浦川 3 0
 ⑨藤原 2 0
 ⑥山川 2 0
 ⑦古賀 2 0

23 3

24 2

ネット裏 ○…この日の人気者は何といつても島原ニュースターズチームの土橋投手で、そのおそるべきタフぶりは二日間で合計37イニングスの連投にもわらず、終始ケロリとした無邪気な表情で各打者を抑えこみ。準優勝戦では最終回に不覚

の牽制悪投に遂に勝運を失ったというもの、一球一球「ヤッソレ」と気合もろとも投げ下ろす動作は愛嬌タップリでスタンドの爆笑と拍手を浴び、ネット裏でもそのファイトと茶目っ気は「県軟式野球界の藤村」と好評しきりだった。

栄冠は北松(日鉄御橋炭鉱)に 宇治橋、殊勲の2ラン

長刑打線4安打に終る

【優勝戦】第5試合(開始15:45) 球振儀失

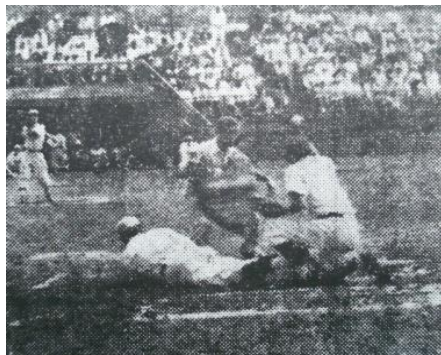
日鉄御橋炭鉱	100 020 001	4	5	9	0	0	【本】宇治橋
長崎刑務所	100 100 000	2	1	9	1	3	【二】小川、本田、松尾誠

【評】栄光の青獅子旗を賭けた一戦は、二転三転するシーソーゲームを展開したが打力に一日の長がある日鉄御橋がわずかに打ち勝った。

長崎刑務所は1-1で同点の四回に松本のスクイズで松尾誠が還って(写真右)1点をリード。さらに一死満塁と攻めつけたが御橋はエース小川が二者連続三振に打ち取りピンチを脱した。

その後の五回、宇治原の右中間2ランで逆転した御橋は、最終の九回二死満塁に押し出し点を挙げて、そのまま逃げ込んだ。

長刑の敗因はタイムリーエラー3個もさることながら、散発4安打に終わった打線全般の不振が致命的といえよう。



【御橋】打安	【刑務所】打安
⑤浦川 5 2	⑨8本 田 4 1
④砂田 3 0	⑥川原 4 0
②宇治原 4 1	①松尾誠 4 2
③井上 5 3	③力安 3 0
⑧藤本 4 1	⑧7松本 3 0
⑨藤原 5 0	④松尾躬 3 0
⑦古賀 4 1	H綾部 1 0
⑥山川 4 0	②森永 3 0
①小川 3 1	⑤長門 3 1
37 9	⑦千住 2 0
	9 松尾弘 1 0
	31 4

ネット裏

○…何しろ宮内庁御用承りの彫刻師が特に調製したという、銀色燦たる純銀製の桑原会長杯を目ざす一戦だけに一試合ごとに1点を争う緊迫したゲームを展開。おかげで各ナインとも、俄然エキサイトし、島原御橋の一戦も、六回スクイズで本塁に殺到した御橋の小川にタッチした長身の村里捕手が、宮崎球審の「セーフ、宣告に、「アウトだ!アウト打!何がセーフだ、と、血相を変えて小柄の宮崎氏に食ってかかるなど一投一打、ナサに真剣そのもののプレーを繰り広げた。。。



天皇賜杯全日本軟式野球大会と国民体育大会軟式野球競技の第1回から第6回までの県代表チームの戦績

<天皇賜杯全日本大会>

第1回【16チーム】(S.21.11.1~京都市)

第1回国民体育大会と兼ねて開催され、16チームのうち九州は佐賀と大分が参加。

第2回【45チーム】(S.22.8.14~東京都)

山領組(佐世保)	【一】	9-0	鶴岡クラブ(山形)
	【二】	3-1	昭和電工富山(富山)
	【三】	2-0	菊水クラブ(東京)
	【準々】	1-0	ピノチオ(京都)
	【準】	1-0	西部瓦斯(福岡)
	【決】	6-0	谷村LCクラブ(山梨)

第3回【46チーム】(S.23.7.1~大阪市ほか)

谷畑	【一】	1-0	鈴木特殊ガラス(福島)
	【二】	1-3	川南造船(佐賀)

第4回【47チーム】(S.24.7.3~福岡県小倉市ほか)

下川商事	【二】	8-0	東野クラブ(栃木)
	【三】	0-1	若松港運(福岡)

国民体育大会は、第2回~第3回が参加8チーム、第4回が23チーム、第5回が24チーム、第6回は25チームの参加で開催されたが、長崎県からの出場は無く、国体に初出場したのは、第10回(S30年)神奈川国体での長崎刑務所である。

第5回【48チーム】(S.25.7.16~愛知県名古屋市ほか)

川南造船	【一】	1-0	青森県庁(青森)
	【二】	4-0	府中刑務所(東京)
	【三】	0-1	和染工業(和歌山)

第6回【48チーム】(S.26.7.14~長野県長野市ほか)

西重長崎造船所	【一】	6-15	日本カーバイト(富山)
---------	-----	------	-------------

<西日本準硬式野球大会>

第1回【12チーム】(S25.8.1~:大分県)

住友潜龍炭鉱	【一】	0-1	新扶桑鋼管(兵庫)
--------	-----	-----	-----------

第2回【27チーム】(S26.5.25~:熊本県)

日鉄御橋炭鉱	【一】	6-3	新潟刑務所(新潟)
	【二】	3-1	徳鉄クラブ(徳島)
	【準々】	3-13	大久保醤油(熊本)